

令和元年6月26日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04281

研究課題名(和文) 『性教育国際指針』をふまえた東アジアにおける性教育分析と包括的性教育の実践研究

研究課題名(英文) Based on "International Technical Guidance on Sexuality Education", analysis of sexuality education in East Asia and practical research on comprehensive sexuality education in Japanese school

研究代表者

田代 美江子 (TASHIRO, Mieko)

埼玉大学・教育学部・教授

研究者番号：40297049

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)： 成果の第1は、韓国、台湾、中国における、性教育の制度的基盤を明らかにし、各国で実際に行われている性教育実践を、『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』に基づき分析することで、それら特徴を明らかにしたことである。この成果は同時に、日本における包括的性教育の課題、特にその制度的基盤の脆弱さという問題を浮き彫りにした。

成果の第2は、公立中学校における人権教育、総合的な学習の時間の中で、具体的な包括的性教育実践を実施し、その成果と課題を明らかにしたことである。中学校3年間で実践できる包括的性教育のカリキュラムと教材、教育方法についての詳細な検討と分析は、学校現場に対する具体的な授業案として提案した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、多様性を前提とするジェンダー平等の視点から東アジアという枠組みで性教育分析を行い、包括的性教育の実践をつくり出そうという点にある。日本だけを見ても、ジェンダー平等の課題は山積みであり、「LGBTへの取り組み」は進みつつあるものの、「性の多様性」についての十分な理解が進んでいるとは言えない。こうした課題において教育の役割は極めて重要である。包括的性教育の実践をつくり出すことを最終目的とする本研究は、性教育実践に直接寄与できるという教育学的意義にとどまらず、日本はもちろん、同様の課題を抱える東アジア諸国のジェンダー平等の実現に具体的に貢献できる可能性を持つものである。

研究成果の概要(英文)： The first of the achievements is to clarify the institutional basis of sexuality education in Korea, Taiwan, and China, and analyze the sexuality education practices in each country based on the "International Technical Guidance on Sexuality Education" by UNESCO. At the same time, this achievement has highlighted the issue of comprehensive sexual education in Japan, in particular the weakness of its institutional basis.

The second of the results is that we have been practicing comprehensive sexuality education practices continuously as human rights education and comprehensive learning in public junior high schools, in that the results and problems were clarified. Based on the examination and analysis results of those practices, we proposed a comprehensive sexuality education curriculum and lesson plans, teaching materials and teaching methods that can be practiced in the junior high school three years to the school site.

研究分野：教育学

キーワード：包括的性教育 ジェンダー セクシュアリティ 性の多様性 東アジア

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 性教育の国際的動向として重要な位置をしめる『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』

包括的性教育の具体的な方向性や内容を示す国際文書として2009年に出されたのが、『国際セクシュアリティ教育ガイダンス("International Technical Guidance on Sexuality Education")』(以下『ガイダンス』)である。これは、「性の権利」としての包括的性教育を具体化したものである。『ガイダンス』は、ユネスコが中心となり、国連合同エイズ計画、WHOなどの組織と世界中の専門家によって開発されたものであり、性教育に関する世界中の研究成果に基づき、性教育の必要性や効果を強調するものとなっている。また、「性教育の具体的内容と目標」が示されており、学校現場等で性教育の全体的な計画を立てたり、具体的な学習課題を決定したりする際の重要な手引きとなっている。『ガイダンス』は各国の性教育の方針と内容に大きな影響を及ぼしており、実際、中国、台湾では、『ガイダンス』をふまえた性教育の手引きやテキスト等がすでに開発されている。しかし、日本の学校教育においては、性教育の制度的基盤がなく、『ガイダンス』の存在も十分に認識されていない。

### (2) 多様性を前提とするジェンダー平等の視点

本研究において性教育分析を行う際に重視するのが、多様性を前提とするジェンダー平等の視点である。『ガイダンス』では、包括的性教育の前提として「セクシュアリティはジェンダーとの関連なしには理解できないこと」、「多様性はセクシュアリティの基本であること」が強調されている。

### (3) 東アジアという枠組の意義

日本においては、性教育に関する研究そのものの層が薄く、諸外国の性教育についても、東アジアという枠組みで性教育の特徴と課題をトータルにとらえようとする研究は皆無である。個別には、中国・台湾の性教育、ジェンダー平等について言及する研究は散見できるが、具体的な教材や実践についての詳細な分析はなされていない。

### (4) 各国の研究グループ・研究者との協力体制

研究代表者はこれまでも、対象とする国々の性教育についての調査を進める中、性教育関係者とのコンタクトをとり、交流を図ってきた。2011年9月に実施した韓国調査では、健康教育を担う保健教師のグループである保健教育フォーラム、性教育実践を行っている青少年性文化センター等へ訪問し、すでに、インタビューやテキスト収集を行っている。2013年4月から5月にかけて実施した台湾調査では、台湾の性研究を担う杏陵医学基金会と台湾性教育協会、ジェンダー平等教育の推進を担う台湾性別平等教育協会、台湾のHIV/AIDS問題に取り組む台湾紅絲帶基金会等を訪問し、性教育協会の晏涵文教授をはじめ性教育関係者と研究交流を行った。また、2013年8月、中国四川・成都で開催された第5回アジア性教育学会で招待講演を行った際には、四川性社会学与性教育研究中心を訪問し、四川青少年性教育基地の胡珍主任、北京性健康教育研究会の張玫玫副会長、中国青愛工程の李扁主任などの性教育研究者と交流した。

### (5) 教員との共同による教材・方法の開発および授業研究につなげるということ

性教育に限らず、教材開発や授業研究において、教員との共同は必要不可欠である。研究代表者をはじめとする共同研究者メンバーは、一般社団法人“人間と性”教育研究協議会(性教協)のメンバーである教員の協力を得て、継続的な性教育実践研究を実施してきた。したがって、本研究では、日本では比較的困難な教員との協力を前提とした研究体制のもとで、継続的な授業研究を実施しながら性教育教材を開発しようという先駆的な性教育研究を実現する基盤を持つ。こうした実践研究については、日本だけでなく、台湾・中国の教員とも交流を図りながら実施する予定である。本研究は、性教育を実践したいと考えている教師にとって有用な性教育教材を、性教育に実際に取り組んでいる教員との共同研究

のもと開発することを目的としている。

## 2．研究の目的

本研究の具体的な目的は以下の2点である。

- (1) 2009年にユネスコにより出された『ガイドンス』を踏まえ、多様性を前提とするジェンダー平等の視点から、中国大陸(都市部)・台湾・韓国における性教育の背景、その具体的内容および教材分析を行い、日本の性教育との比較分析を行うと同時に、東アジアにおける性教育の特徴を明らかにする。
- (2) 東アジアにおける性教育の特徴と課題を明らかにし、中国大陸・台湾・日本の研究者および学校現場の教員と協力し、包括的性教育の教材および教育方法の開発、授業研究を行い、子ども・若者の現実と要求に即した性教育実践の具体的課題と展望を明らかにする。

## 3．研究の方法

- (1) 中国都市部、台湾、韓国を中心とするとするフィールド調査を行い、各国の性教育研究チーム等と交流することで、教材収集および実践研究を実施する。
- (2) 特に、目的(2)を実質的なものとするため、日本における学校・教員との協力関係で授業案および教材の開発、授業研究を実施する。その際、アンケートやインタビューによる生徒からの意見も聴取し、実践研究にいかす。
- (3) 収集した資料・テキストの分析を平行して進める。現地調査については、これまでの準備状況を踏まえ、中国での調査を優先する。可能な限り、中国研究者と共同で授業実践、教材開発の検討を行う。

## 4．研究成果

(1) 『国際セクシュアリティ教育ガイドンス("International Technical Guidance on Sexuality Education")』の翻訳出版

本研究の基盤となる成果であり、日本における性教育の分析および実践の発展において重要な位置を占めうる成果となった。本研究のフィールドである中国、韓国、台湾等における『ガイドンス』の位置づけを明らかにしながら、日本における『ガイドンス』の意義や実践へどのようにいかしうるのかについて発信することができた。

### (2) 韓国

韓国では、2000年に小中高校での性教育が義務化され、性教育に関わる指針や指導書、指導資料、プログラムが出されており、性教育推進の動きが2000年代以降加速している。こうした動向には、保健教師組織である「保健教育フォーラム」の運動が大きく寄与しており、学校で使用されるテキスト作成などにも積極的に取り組んでいる。2013年には、「国家水準性教育標準案」(以下「標準案」)が交付・通知されており、小中高校の性教育の内容が具体的に示されている。しかし、この「標準案」には「性の多様性」の内容が排除され、禁欲が強調されるなどの問題点もある。

性教育に関わる省庁としては、女性家族部、保健福祉部、教育部がある。特に女性家族部は、人権を基盤とした教育の一環として子どもや成人への性暴力などを中心として「性人権教育(人権を基盤にした包括的な性教育)」の専門教師の養成や教員研修等を実施している。女性家族部の一機関として青少年性文化協会があり、民間との協力により青少年性文化センターが全国58カ所(2018年時点)あり、センターでの性教育や学校への出張講義などが充実している。教育部の管轄である「学生健康情報センター」は、学校保健、学校体育などの事業に関わり、「標準案」の作成も行った。

こうした制度的基盤を背景に、韓国では複数の教科の中で性が多面的に取り上げられている表 1。

表 1 性教育に関連した内容を含む教科

小学校	保健、家族、社会、倫理、道徳
中学校	保健、社会、道徳、体育、技術家庭
高校	保健、技術家庭、生活と倫理、東アジア史

小中高校で共通する保健科では、科学的な知識と実践的スキル、社会的・文化的な性の側面を取り上げている。小学校の段階から、人間の性と生殖、性行動に関する生理学的、社会・文化的側面の知識とスキルを学ぶことができる教科書となっている。また、性暴力防止教育には力を入れており、教科書の中でも幅広く具体的な扱いがなされている。性の多様性の視点が弱いという問題点もある。道徳では、ジェンダー平等、生殖医療などの現代的な課題などが扱われており、様々な情報と知識から自分の考えを構築するような学びが用意されている。生活と倫理では、中絶、試験管ベビーや代理母といった生命倫理についても扱っている。

### (3) 台湾

台湾の現在の性教育は、2004年に制定された「性別平等教育法」が重要な基盤となっている。「性別」とは、「ジェンダー」の訳であり、この表現には、多様な性の存在が含意されている。この法律ができ「性別平等」という言葉が使われるようになったことで、台湾では、性差別を解消し、実質的なジェンダー平等を促進するため、ジェンダー平等教育が学校に明確に位置づけられた。この法律の中には、セクシュアルハラスメントや性暴力、性的指向による差別、妊娠している学生の学習の権利など、セクシュアリティに深く関わる事項が含まれている。この法律が基盤となり、小・中学校での性教育の内容がさらに充実すると共に、2006年には高校での「健康與護理（健康と看護）」が新たな科目として設けられることによって性教育を受ける機会が高校でも保障されることになった。

また、2010年には、台湾における性教育の指針として、『学校性教育【工作指引】』（以下『指引』）が出されている。これは、教育部（日本の文科省にあたる）が杏陵基金会に委託する形で作成され、先で見た『ガイダンス』やSIECUSの『包括的性教育のためのガイドライン』が参考にされているだけでなく、性教育協会・基金会による性教育研究、資料をふまえたものとなっている。しかし、性教育の具体的内容を見ていくと、固定的な家族制度が絶対とされている点、異性愛主義が前提となり、優生思想が強く表れていることなど、東アジアに共通する課題を多く抱えていることは否定できない。しかし、性教育が青少年にとって権利であることが明記されており、特に2000年代以降は、台北市などにおいて、性教育の内容に「性の多様性」が含まれるようになっているおり、教員研修、学校への出前授業なども行われている。

### (4) 中国

中国では、特に2000年以降は、HIV/AIDS 予防教育に力点が置かれており、「中小學生預防艾滋病專題教育大綱(小・中學生エイズ預防特定教育綱要)」、「中小學生毒品預防專題教育大綱(小・中學生藥物預防特定教育綱要)」が出されている。これによって、学校は、子どもたちがHIV/AIDSに関する知識と健康的な生活習慣を身につけ、HIV/AIDS からの自己防衛意識と感染を防ぐことのできる能力を高めるための教育が進められることになっている。2006年には、国務院による「教育部关于彻底落实 中国遏制与防治艾滋病行动计划》(2006~2010年)的意见（教育部による中国エイズ予防とコントロールの徹底に関する計画(2006~2010年)）」によって、HIV/AIDS に対する知識の普及率の具体的な目標が示されている。

こうした法的基盤のもと、具体的な性教育への取り組みは都市部で進展している。例えば、

2006年に四川省教育庁から認められる形で四川性社会学與性教育研究中心（以下、センターとする）が設立され、そこでは組織的に、性教育研究、教材開発、性教育教員研修、性教育実践など性教育普及のための幅広い活動が行われている。また、『ガイドンス』の開発に関わった劉文利を中心とする北京師範大学の性教育研究グループは、「性健康教育」のテキスト作成とその実践研究が2010年頃から継続されている。このグループが作成した小学校1～6年の性健康教育テキスト『珍愛生命』は、『ガイドンス』の枠組みを忠実に再現したものになっている。しかし、実際の授業を実施する教員の知識やジェンダー意識には課題もある。

#### (5) 中学校における性教育プログラムの開発

上記の成果を踏まえながら、中学校における性教育実践プログラムを、学校・教員との共同で作成した。これは、2013年から継続してきた実践研究を基盤としている。当初、本研究グループのそれまでの性教育プログラムを基盤に、時間確保の問題から各学年2時間、中学3年間で6時間の授業展開として出発したが、現在は、保健体育科の内容も含め、12時間の内容の検討が続けられている（表2）。今後さらに、情報モラル教育と関連させ、性情報に関わる授業案も開発予定である。プログラム開発にあたっては、現場の教員との協力関係はもちろん、授業案の検討、授業実践、生徒への事前事後調査、生徒の感想分析、生徒へのインタビュー、性教育に取り組んだ教員への調査・インタビューといった作業を繰り返し、一つひとつの授業を発展させることができた。

表2 性の学習プログラム

学年	性の学習	保健科
1	生命誕生 らしさを考える	思春期のからだの発達と変化 性機能の成熟（月経） 性機能の成熟（射精）
2	多様な性 多様な性	
3	性行動を考える 避妊と人工妊娠中絶 恋愛とデートDV 恋愛とデートDV	性感染症 HIV/AIDS

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計58件)

- 1) 田代美江子、敗戦後日本における「純潔教育」克服の課題、同時代史研究、査読なし、11、2018、35-51
- 2) 艮香織、人権教育としての性教育に関する一考察、同時代史研究、査読なし、11、2018、67-83
- 3) 渡辺大輔、国連・ユネスコにおける性の多様性教育の位置づけからみる日本の教育の課題、同時代史研究、査読なし、11、2018、61-72
- 4) 田代美江子、学校でこそ性教育を！：足立区の実践をあたりに、教育、査読なし、874、2018、5-14
- 5) 渡辺大輔、教育課程と「性の多様性」 フィンランド・台湾の現状からみる課題、教育、査読なし、874、2018、45-52
- 6) Noriko Hshimoto, Kaori Ushitora, Mari Morioka, Terunori Motegi, Kazue Tanaka, Mieko Tashiro, Emiko Inoue, Hisao Ikeya, Hisashi Sekiguchi, Yoshimi Marui & Fumika Sawamura, School education and development of gender perspectives and sexuality in Japan, 査読あり、Sex education Sexuality, society and Learning, 17, 2017, 386-398

〔学会発表〕(計12件)

- 1) 及川英二郎、堀川修平、田代美江子、艮香織、渡辺大輔、張莉、ジェンダー・セクシュアリティ

- ティの視点から見た包括的性教育実践、日本教育学会 2018
- 2) 田代美江子、渡辺大輔、学習指導要領の問題点と包括的性教育の可能性、日本思春期学会、2018
  - 3) 渡辺大輔、セクシュアル・マイノリティへの文科省の対応とその問題点・課題、日本教育学会関東地区、2017
  - 4) 田代美江子、日本における性教育の現状、課題と展望、第6回アジア性教育会議(国際学会、台湾)、2016
  - 5) 渡辺大輔、性的マイノリティの子ども・若者の生きづらさと学校での相談・援助活動の現状と課題、日本生活指導学会、2015
  - 6) 田代美江子、「性の権利」としての包括的セクシュアリティ教育、日本国際保健医療学会、2015
- [図書](計4件)
- 1) 渡辺大輔、平凡社、性の多様性ってなんだろう?(中学生の質問箱) 2018、224
  - 2) 浅井春男、良香織、鶴田敦子編著、大月書店、性教育はどうして必要なんだろう? 包括的性教育をすすめるための50のQ&A、2018、174、執筆部分:7-12,134-137,157-158,168-170(良)、37-38,95-97,117-119(田代)、123-129,142-143(渡辺)、58-59(及川)
  - 3) 池谷壽夫、田代美江子、橋本紀子編著、かもがわ出版、教科書に見る世界の性教育、2018、181、執筆部分:9-13,116-132,170-181(田代)、133-149(良)
  - 4) ユネスコ編、浅井春男、良香織、田代美江子、渡辺大輔訳、明石書店、国際セクシュアリティ教育ガイドンス、2017、216

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名: 良 香織

ローマ字氏名: USHITORA, Kaori

所属研究機関名: 宇都宮大学

部局名: 教育学部

職名: 准教授

研究者番号(8桁): 10459224

研究分担者氏名: 渡辺 大輔

ローマ字氏名: WATANABE, Daisuke

所属研究機関名: 埼玉大学

部局名: 基盤教育研究センター

職名: 准教授

研究者番号(8桁): 00468224

研究分担者氏名: 及川 英二郎

ローマ字氏名: OIKAWA, Eijiro

所属研究機関名: 東京学芸大学

部局名: 教育学部

職名: 教授

研究者番号(8桁): 80334457

### (2)研究協力者

研究協力者氏名: 樋上 典子

ローマ字氏名: HIGAMI, Noriko